

平成20年度 札幌しらかば台南病院行事一覧

	許可・届出・治療	学会・研修	行事
4月	1日 脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅲ) 1日 光ディスク等を用いた費用の請求届出 (MO)		
5月		20日～22日 看護研究の基礎研修会 (北海道看護協会) 28日 ライフリー札幌排泄ケア研修会 (ユニ・チャーム㈱)	26日～6月6日 春期職員健康診断 31日 しらかば会 観桜会
6月		14日 特定健診・特定保健指導について (医療経済研究機構)	13日 電気設備年次点検(停電作業)
7月		5日 地域医療を守るために(北海道病院学会) 19日 保健請求事務講座(北海道医師会) 23日 衛生講習会(札幌市保健所)	19日 西藤野夏まつり 敷地内にて開催 26日 しらかば会 夏祭り キリンビール園
8月		27日 ライフリー札幌排泄ケア研修会 (ユニ・チャーム㈱)	18日 AED勉強会 (医療機器・安全対策委員会) 26日 花火大会 正面駐車場にて開催
9月		8日 特別管理産業廃棄物管理責任者資格 取得講習会(日本産業廃棄物処理振興 センター) 13日 機能選択前提時代の病院経営 (NPO法人 北海道病院協会)	9日 敬老会 食堂にて開催 日本舞踊 21日 札幌市保健所 立入検査
10月		2日～4日 第50回 日本消化器病学会大会 8日 危険物施設の定期点検について (札幌市南区危険物安全協議会) 12日 医療・介護の現場における感性の実務 への展開(日本リスク・マネジメント 協会)	18日～19日 観楓会(定山溪)第1班 25日～26日 観楓会(定山溪)第2班
11月		6日 第73回 ICD講習会(ICD制度協議会) 7日 医療ガス保安講習会 (日本産業・医療ガス協会) 11日 医療安全講習会(札幌市保健所)	27日～12月10日 秋期職員健康診断
12月	10日 レセプトオンライン請求確認試験届出 10日 特定健診オンライン請求確認試験届出	11日 医療安全に関するワークショップ (厚生労働省)	1日 院外処方へ変更 3日 院内研究発表会(本院) 6日 2008年度康和会忘年会 25日 クリスマス会 29日 御用納め
1月		28日 テーマ別食品衛生講習会(札幌市保健所)	5日 仕事始め
2月		21日 政策医療ネット「神経・筋疾患」研修会 (国立病院機構札幌南病院) 25日 職場の心理学「職場におけるメンタル ヘルスの実践とストレスマネジメント」	
3月		4日 札幌市医師会南区支部 医療保険研修会	24日 北海道厚生局 施設基準等調査

● 医 局

まず、療養病床の入院に関してですが、各方面各位様の多くの協力を得て、患者数に関しては、ほぼ目標達成したと考えています。ただ年末にかけては医療度の高い患者比率が上昇し、協力病院の多大な助力が必要でした。ありがとうございました。

看護部、栄養科、リハビリ科とも協力し、低栄養状態の進まない段階での栄養管理にもう少し力を入れる必要があると考えています。

外来部門に関してはまだなかなか実績が得られておりませんでした。幸い微増の状態であることや、国立南病院の閉鎖に伴い、とくに糖尿病、肝炎患者の口コミによる増加傾向がやや明るい材料といえます。血糖値、HbA1c、尿酸値、インターフェロン用検査などの迅速検査の対象患者やエルシトニン製剤や強力ミノCの定期的注射の必要な患者が増えてきているので期待がもてると考えています。C型肝炎患者については、特に札幌厚生病院と連絡を取り合って増患につなげたいと模索中です。

入院外来とも医師不足は深刻で、一日も早く、若いエネルギーの注入を望みます。

● 看 護 部

看護部では、患者さまやご家族の方に「ここに来てよかった」と思ってもらえるような看護や介護が提供でき信頼関係が築けることを目標に取り組んでいます。

病棟での第一の課題は転倒防止でした。看護師と介護員がチームを作り、研究テーマとして取り上げ活動したことは、事故防止に対する意識がさらに高くなったと考えています。しかし、入院患者さまが増えたことでもあります。件数の減少までには至らなかったことから、今後はより深く患者さま1人1人の状態の把握や原因の分析などを行い継続して取り組んでいきたいと考えています。

入院患者数も満床近くになり業務に追われる日々が続いています。入院患者さまは、胃瘻患者や全介助患者が増加し医療ニーズも高くなっていますが、業務改善委員会が中心となり業務を整理し円滑に進められるよう職員一丸となって取り組んでいます。また、入浴時での移動介助では、エレベーターがないため、1階の浴室から2階の病室へは、スロープを使用しての移送は大変な労力が必要でしたが、他部署から協力を得られた事で、安全確保と労力の軽減に繋がり、部署間での協力体制が大きな力となっていると感じています。

外来では、開院当初から通院している患者さまもいらっしゃいますが、特定健診等で、初めて生活習慣病と診断される患者さまも増えてきています。

外来としては、マニュアルの作成や院内検査項目の拡大、院内処方から院外処方への変更等があり、外来診療も充実してきました。他部門と連携し患者さまの待ち時間の短縮やスムーズに診療が行えるよう配慮し、今後も話しやすい、相談しやすい雰囲気づくりに心がけて地域の皆様が、心身共に健康に過ごせるよう貢献していきたいと思っています。

● 事 務 部

事務部では、医事業務、資材管理業務、施設管理業務、財務管理業務などを5名(12月からは産休のため4名)のスタッフで行っております。

受付は、病院の第一印象を与える重要なところでもあることから、ご来院された方とのコミュニケーションを大切に、笑顔で自ら率先して声を掛けることを意識し、相手の立場に立って行動する

ことに努めました。また、コスト意識を常に持ち、無駄なものや必要数以上に買わないよう心がけています。施設設備も老朽化からくるものは避けられませんが、まずは自分たちでできる範囲のものかを検討しながら行っています。また、廃棄物の処理費用削減についても、資源化ごみへの分別、無償廃棄物の分別の徹底へも取り組んでいます。

病院全体としては、7月には病院敷地内で、西藤野地区町内会の夏祭りが開催され、入院患者さまも会場へ行き、出店で買い物やゲーム、盆踊りなどを楽しみ地域の方との交流を深めました。

8月には敷地内にある畑で育てていたミニトマトを、9月には大きく育ったじゃがいも、その後とうきびや枝豆などの収穫を患者さまと一緒に楽しみ、食事の中に取り入れ食べていただき季節を感じていただきました。

敬老会では、市内の福祉施設へ慰問活動している皆さんに、馴染みのある演歌に合わせて日本舞踊を披露していただき、多くの患者さまに楽しんでいただきました。

事務部は、直接入院患者さまと接する機会が少ないため、忙しい病棟業務の協力として患者移送(病室～浴室 車イスでの移送)を行い、患者さまと会話できる時間を増やすことができました。これは、患者さまのことをよりよく知り、今後の行事にも役立てたいと考えています。また、部署や職種に関わらず協力することで、他部署の業務のことも理解できると思います。

今後も、日々の業務を怠らず、地域住民の皆さんの信頼を得られるように、努めていきたいと考えています。

● 診療技術部

札幌しらかば台南病院の診療技術部は、リハビリテーション科・薬剤科・栄養科・放射線科・検査科の5部署で構成されています。小規模の病院ですので各部署少人数のスタッフですがチームワークで日々の医療に携わっています。

2008年度各部署の主な取り組みは以下の通りでした。

リハビリテーション科では、理学療法を開始し対象患者様へのリハビリテーション・サービスの向上・充実を目指し、業務に取り組んできました。また、2008年12月には、院内研究発表も行いました。

放射線科では業務内容に変化はありませんが、胃瘻患者様の増加に伴い、チューブの挿入・交換に伴う透視・造影の検査が増えました。

栄養科では、入院患者様への栄養指導の実施、経腸栄養剤についての情報提供などを行ってきました。

薬剤科では、主な業務として医薬品の管理、医薬品情報の収集及び各部署への提供、また入院患者様及び家族の方々に対して服薬指導業務を行いました。入院中に服薬に対する理解を深めていただき、ご自宅に退院後も間違いなく継続的に服薬していただけるよう心がけました。

検査科では、患者様の診療に迅速な対応ができるように、院内実施可能検査の充実として血液凝固検査・生化学検査分析機の導入を行いました。

昨今、医療・介護に関する情報はテレビや出版物等で紹介される機会も多くなり、サービスを受ける側の知識の豊富さを感じることも多くなってきているように思います。そうした中、サービスを提供し、ご満足いただけるよう、次年度も各部署それぞれが引き続き努力していかなければならないと思っております。